

流体圏環境研究室配属実験演習

文責 河野・松井・白井

研究室配属された3年生に対して開講される卒業研究準備実験・ゼミナール1の講義において、水圏環境研究室実験演習（水圏演習）と大気圏環境研究室実験演習（大気圏演習）を、2016年10月19日、11月8日に実施しました。各研究室の4年生が主体となり、配属される3年生に対して演習課題を考えました。共通の目的としては、測器の扱い方、手法を習得してもらうことです。

水圏演習ではピペット体験を行いました。水圏では谷津干潟の24時間水質調査があり、水質分析を行う際に試薬を用いるため、ピペットの練習は必須です。演習で用いたピペットはマイクロピペッター（1ml）、ホールピペット（5ml、10ml）の3種類です。最初は4年生から説明を受け、それを基に3年生はピペットの練習に真剣に取り組んでいました。



大気圏演習では屋内の気温観測演習と題し、熱電対とデータロガーを用いた演習を行いました。大気圏では谷津干潟観測や温熱環境測定の際、データロガーや熱電対を用います。これらの研究は全員で行うこともあり、また、大量のデータを解析するうえでの注意点について知っておく必要があります。4年生と一緒にロガーの設定と熱電対の装着を行い、3年生自ら観測を行いました。得られたデータはグラフ化し、考察をしてもらいました。



本演習では、3年生は水圏／大気圏環境研究室のどちらに配属するかに関係なく、両方の演習に取り組みました。演習を通して、これから始まる研究活動で用いる測器の扱い方や手法、注意点を理解してくれたと思います。

